

教会創立記念礼拝

2023年10月1日(日) 午前10時30分

午後4時

司式 牧師 高橋和人

奏楽 河野和雄

前 奏

招 詞 詩編103編1b節

讚 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 13編2～6節 (旧844)

マタイによる福音書17章14～20節

(新33)

祈 祷

使徒信条

191

説 教 「信仰のできること」牧師 高橋和人

祈 祷

洗 礼 式

199

讚 美 歌

541

聖 餐 式

獻 金

頌 荣

祝 祷

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

10月の祈り

主の御心によってキリストの体としての教会がここに立てられ、御言葉に立ち、宣教の使命に生き、主の導きによって今に至るまで守られて來たことに感謝し、世の終わりまで、時が良くても悪くても、御言葉を宣べ伝え、希望をもって歩に歩むことができるよう。

礼拝諸集会と各部会、部門会、教会学校、幼稚園の働きが力づけられるよう。

平和を求める祈りが力づけられるよう。

今日の祈り

田園調布教会92周年の恵みを覚え、新たな歩みが力づけられ、祝されるよう。

受洗者が与えられた恵みを覚え、新たな歩みが主イエスと共にあり、祝されますように。弱っている兄弟姉妹にみ手が与えられ支えられるよう。

「信仰のできること」 高橋和人

マタイによる福音書17章14～20節

教会創立92周年を迎えた。主の教会の歩みは貫している。何よりも、終わりの日、主の日に向かっている。それは日々の積み重ねによって形づくられている。教会の積み重ねるべきことは、礼拝であり、神の言葉の説教と聖餐と洗礼の聖礼典である。それが教会の軌道、伝道の軌道となる。

それは、主イエスの歩みに身を寄せることになる。主の歩みを辿ることは聖書を辿ること。

主イエスは高い山の上で弟子三人に神の子の姿を示された。山を下り群衆のところに行かれる。独りの男がひざまずく、息子が治されることを願うが弟子たちはできなかった。

主は信仰のない時代と激しく嘆かれる。そして、

「あなたがたといつまで共におられようか、我慢しなければならないのか」と言われる。主はあなたの信仰を問われる。よこしまなは「曲がった」の意味。よこしまな時代は神なし生きる時代、今まさに世界は神無しに成り立っているように見せる。

その中で、この父親は自分の息子が憐みを受け癒されることを願う。世界が発展しても、救いがもたらされるわけではない。人の欲望を満たそうしながら、人間的なものから押しやられてしまう。人の痛みも嘆きも空しさもなくなることはなくむしろ人を閉じ込め支配している。

主はその子を連れてこさせ、悪霊を追い出しいやされた。

弟子たちは主のもとに来て、なぜ追い出せなかつたかを聞く。主は信仰が薄い（小さい）からだと明言する。からし種一粒の信仰があれば、山を動かすことができるという。

主は信仰の小ささを問い合わせ、小さな信仰があればといわれる。わたしの信仰はどうであろうか。信仰が問題になるのはいつもその小ささを知らされる時だ。信じられなくなり、祈れなくなる時だ。自分の信仰心は信仰とは違っている。なぜなら、信仰は自分のものではなく、与えられるものだからだ。

信仰はただ与えられるところにある。求めるところにこそ信仰がある。祈りは祈れない時の祈りこそ祈りの心をもたらす。うめきにしかならない祈りがむしろ執り成しを受ける。信仰のからし種に及ばない小ささ、信仰のなさを知らされるとき、必要なのは赦されることだ。主は十字架の贖いによって赦しを与え、招き、赦しをお与えになる。

主のなさることに不可能はない。必ず赦される。そこに信仰の種がある。